

自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520364

研究課題名 (和文) 移動現象と名詞句の構造に関する比較統語論研究

研究課題名 (英文) Comparative Syntax on Movement and Noun Phrase Structure

研究代表者

齋藤 衛 (SAITO MAMORU)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：70186964

研究分野：統語論

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：比較統語論、パラメター、文周縁部、情報構造、移動現象、名詞句、削除現象

1. 研究計画の概要

人間の生得的言語能力の解明を目的とする生成文法においては、多様な言語の比較を通して、人間言語の普遍的性質を探求することが重要な課題となる。この比較研究では、日本語研究者も重要な役割を果たしてきた。同時に、英語の分析を基礎として言語理論が発展してきた歴史的経緯があり、日本語研究者による比較研究の多くは、日英語比較の形をとってきた。本研究の目的は、日本語を英語以外の他言語と比較することによって、大きな成果を得ることができると考えられる研究テーマを取り上げ、日本語を中心とした比較統語論研究を遂行することにある。具体的には、中国語、韓国語、ロマンス系言語、ドラヴィダ系言語との比較を通して、文左方周縁部の構造および名詞句の統語的変異の研究に貢献することをめざす。

2. 研究の進捗状況

(1) 文左方周縁部については、ロマンス系言語の研究が最も進んでおり、特に、スペイン語、イタリア語との比較研究が重要となる。然るに、日本語が主要部後置型であり、かつ自由語順を許容することから、ロマンス系言語の研究成果を日本語に適用し、検証することはむずかしいと考えられてきた。

本研究では、まず、日本語における文頭句の解釈パターンに注目し、自由語順を導くスクランプリング規則がこれとどのように作用し合うかを検証することによって、日本語においてもイタリア語の主語句に対応する投射があることを示した。(雑誌論文②)

次に、日本語の補文標識「と、か、の」の分布と解釈を手がかりとして、より体系的に比較研究を遂行した。まず、「と」が埋め込まれた疑問文、依頼文、感嘆文にも付随する

ことに注目し、この補文標識が、スペイン語の *que* と同様に直接引用の言い換えを示す機能を有することを明らかにした。また、*que* がこの機能と命題を示す機能を併せ持つのに対して、「と」は前者に特化した補文標識であるとの結論に至った。さらに、これまで特殊であるとされてきた「の」が、命題文の埋め込みを表す典型的な補文標識であることを例証した。このことは、音声的には区別されないものの、スペイン語には、引用の言い換え、疑問、命題に対応する三種類の補文標識があるとする Plann (1982) の仮説に、明示的な証拠を与えることになる。日本語では、この三種類が「と、か、の」という形で音声的にも区別されるからである。(雑誌論文①)

最後に、上記の結果を、Rizzi (1997) による補文標識の階層性に関する理論に照らして再検討した。Rizzi 氏はイタリア語左方周縁部の研究に基づき、Force-Topic*-Finite という補文標識の階層性があると提案している。本研究では、まず、「か」が Force、「の」が Finite に対応することを示し、その上で、補文内における中立主題の分布を検討することにより、日本語においても同様の階層性が観察されることを明らかにした。このことは、ヨーロッパ系言語に基づく Rizzi 氏の仮説の普遍性を示唆するものである。(学会発表③)

(2) 名詞句については、日中語、日韓語比較を中心に研究を進めた。日本語は主要部後置型、中国語は概して前置型であるが、日中語の名詞句は表層的には共に主要部後置型であり、類似点が多いとされてきた。本研究では、修飾のマーカ「の」と「的」の分布、数辞句の性質、N'削除の分布に見られる両言語間の相違を検討し、中国語名詞句が日本語とは異なり、主要部前置型構造から派生され

るとすることによって、これらの相違に説明が与えられることを論証した。(雑誌論文⑤)

日韓語比較では、まず、両言語における削除現象全般を比較して、N'削除の有無においてのみ差異があることを明らかにした。その上で、修飾マーカの「の、uy」の分布に関して、ミクロな差異があることを考察し、これに基づいて韓国語における N'削除の欠如が説明しうることを示した。名詞句構造に関する限り、日中語の相違は主要部の位置に関するマクロパラメーター、日韓語の相違は修飾マーカに関するミクロパラメーターによって説明されることになる。(学会発表②)

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

本研究は、新たな研究領域を開拓する性質のものであるが、文左方周縁部と名詞句構造の双方において、すでに具体的な仮説の提示に至っている。このことは、予想を超える成果が得られていることを示す。

文左方周縁部については、日本語補文標識の階層が、基本的にはイタリア語と同一であり、これにスペイン語にみられる引用の言い換えを示す補文標識を最上位に加えたものであるとの結論が得られている。この仮説は、日本語とロマンス系言語の今後の比較研究の基礎となりうるものである。また、名詞句構造に関する日中韓語の比較研究においても、具体的なパラメーターによる言語間の相違の説明に至っており、東アジアの言語を対象とした比較統語論のさらなる展開のための基礎固めはすでに行われたと言えよう。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 研究をさらに深めていくために、文左方周縁部については、ロマンス系言語との比較研究を継続し、また、ドラヴィダ系言語を含むアジアの諸言語との比較研究にも取り組む予定である。また、名詞句構造では、ヨーロッパ系言語の中で分析が進んでいるイタリア語との比較が課題となる。

(2) 本研究をまとめるに当たって、理論的に重要となるテーマは、文法格の分析と主要部パラメーターの本質の解明である。いずれも、比較統語論の中心的テーマであるが、日本語文法格の特殊性や日本語の主要部後置型句構造の位置付けについては、明確な研究の方向性が見出されてこなかった。しかし、文左方周縁部や削除現象に関するこれまでの研究成果は一定の方向性を指し示しており、このテーマに取り組む機は熟したと考えられる。文法格と主要部パラメーターに関する具体的な仮説の提示は、これまでの研究成果と合わせて、日本語の類型的な位置付けを明確にすることになる。プロジェクト最終年度は、この課題を中心に据えて研究を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① Saito, Mamoru. 2010. On the Nature of the Complementizer *To*, *Journal of Japanese Linguistics* 26 (special issue in memory of S.-Y. Kuroda), 85-100. 招待につき査読適用外.
- ② Saito, Mamoru. 2010. Semantic and Discourse Interpretation of the Japanese Left Periphery, *The Sound Patterns of Syntax*, Oxford University Press, 140-173. 論文集全体の査読あり.
- ③ Saito, Mamoru. 2009. Optional A-Scrambling, *Japanese/Korean Linguistics* 16, 44-63. 招待につき査読適用外.
- ④ Saito, Mamoru and Kensuke Takita. 2009. On the Variety of Movements to the vP Edge, 語彙の意味と文法, くろしお出版, 307-329. 査読なし.
- ⑤ Saito, Mamoru, T.-H. Jonah Lin and Keiko Murasugi. 2008. N'-Ellipsis and the Structure of Noun Phrases in Chinese and Japanese, *Journal of East Asian Linguistics* 17, 247-271. 査読あり.

[学会発表] (計 6 件)

- ① Saito, Mamoru. On the Architecture of Japanese CPs, Formal Approaches to Japanese Linguistics 5, 2010年5月8日, University of California at Santa Cruz. (Invited Speaker)
- ② Saito, Mamoru and Duk-Ho An. A Comparative Syntax of Ellipsis in Japanese and Korean, The 6th Workshop on Altaic Formal Linguistics, 2009年9月6日, Nagoya University. (Invited Speaker)
- ③ Saito, Mamoru. Selection and Clause Types in Japanese, International Conference on Sentence Types: Ten Years After, 2009年6月27日, Universität Frankfurt am Main. (By invitation)
- ④ Saito, Mamoru. On the Scope Properties of Japanese Nominative Phrases, The 7th GLOW in Asia Conference, 2009年2月27日, EFL University, Hyderabad. (Invited Speaker)
- ⑤ Saito, Mamoru. Semantic and Discourse Effects of Scrambling, The 7th Pan-Asiatic International Symposium on Languages and Linguistics, 2008年12月5日, 広東外語外貿大学. (Keynote Speaker)

[図書] (計 1 件)

- ① Miyagawa, Shigeru and Mamoru Saito, eds. (2008) *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, Oxford University Press, 553 pp.

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

特になし.